

# 秋の法要・福祉講座



去る9月3日(日)午後1時～徳成寺において、秋の法要「福祉講座」が勤まりました。最高気温が35度と予想される猛暑にも関わらずお参り頂きまして、誠にありがとうございました。

毎年秋は、福祉をテーマにして法要を執り行っています。この度は、「命は誰のものですか」と題して、スイス出身の真宗大谷派僧侶ジェシー・釋萌海(ほうかい)さんをお招きしました。ジェシーさんは、アルプスの少女ハイジと同じ村の出身だそうです。

ジェシーさんは、幼い頃から空手に親しんでおられたそうで、それが日本に来る直接のキッカケだったそうです。

そこから真剣を扱う居合抜きの世界に巡り会い、さらに尺八も趣味でたしなんでおられるのだとか。

しかし僧侶は、趣味ではなく英語で「THE WAY OF LIFE」つまり僧侶と言う生き様を選んだのだとキッパリ仰っていました。右の写真は、スイスで制度化されている安楽死(自殺ほう助)を選んだお母様の死の直前のお写真です。



お母様は、親しい友人を失ったことをキッカケに、何十年来自分の死の決断は自分ですというポリシーを実行に移したのです。

残されたジェシーさんには、心に大きな穴がポッカリ開いてしまい、今もなおわだかまりが解けないでいるということでした。

人の苦しみを解消することはできなくても、苦しみを共にする道が開かれていることや、悲しみ苦しみがあるゆえに、本当のより所が何なのかを仏教に教えられていると語って下さいました。

自らの奥底に生きようとするいのちに目を覚ますまで待つ大切さも教えて下さいました。



最後に、ジェシーさんは譜面を見せ尺八の演奏を披露して下さいました。「旅人」という曲で、大変胸に重く響いてくるものがありました。たとえ死んでしまいたいと思ったとしても、生きようとするいのちから私たちが問われている、そんな響きに感じました。

